

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）
2025年度会員アンケート調査 集計結果



2025年度JILS会員アンケート集計結果報告

<アンケート調査の概要>

■目的

- ・会員のロジスティクスの現状・課題調査
- ・今後の事業展開に向けた顧客ニーズ調査
- ・J I L S活動の評価確認

■調査方法

メール案内、WEB回答方式

■調査期間

2025年12月8日（月）～12月19日（金）

■調査対象・回答状況

調査対象：法人会員

1,099社／登録者 2,846名

個人会員

66名

回収状況(括弧内は前年)：

有効回答数

347件(309件)／318社(280社)

回答率

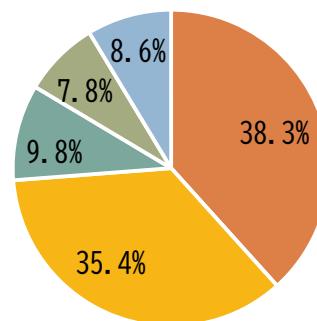
回答者数／調査対象者数：11.9%(13.5%)

回答社数／調査対象社数：27.2%(26.5%)

※有効回答の定義

本調査では、回答者情報：業種、会社名、所属・役職、
氏名、メールアドレスのいずれかに記入のあった回答を
有効回答とし集計対象とした。

回答者業種

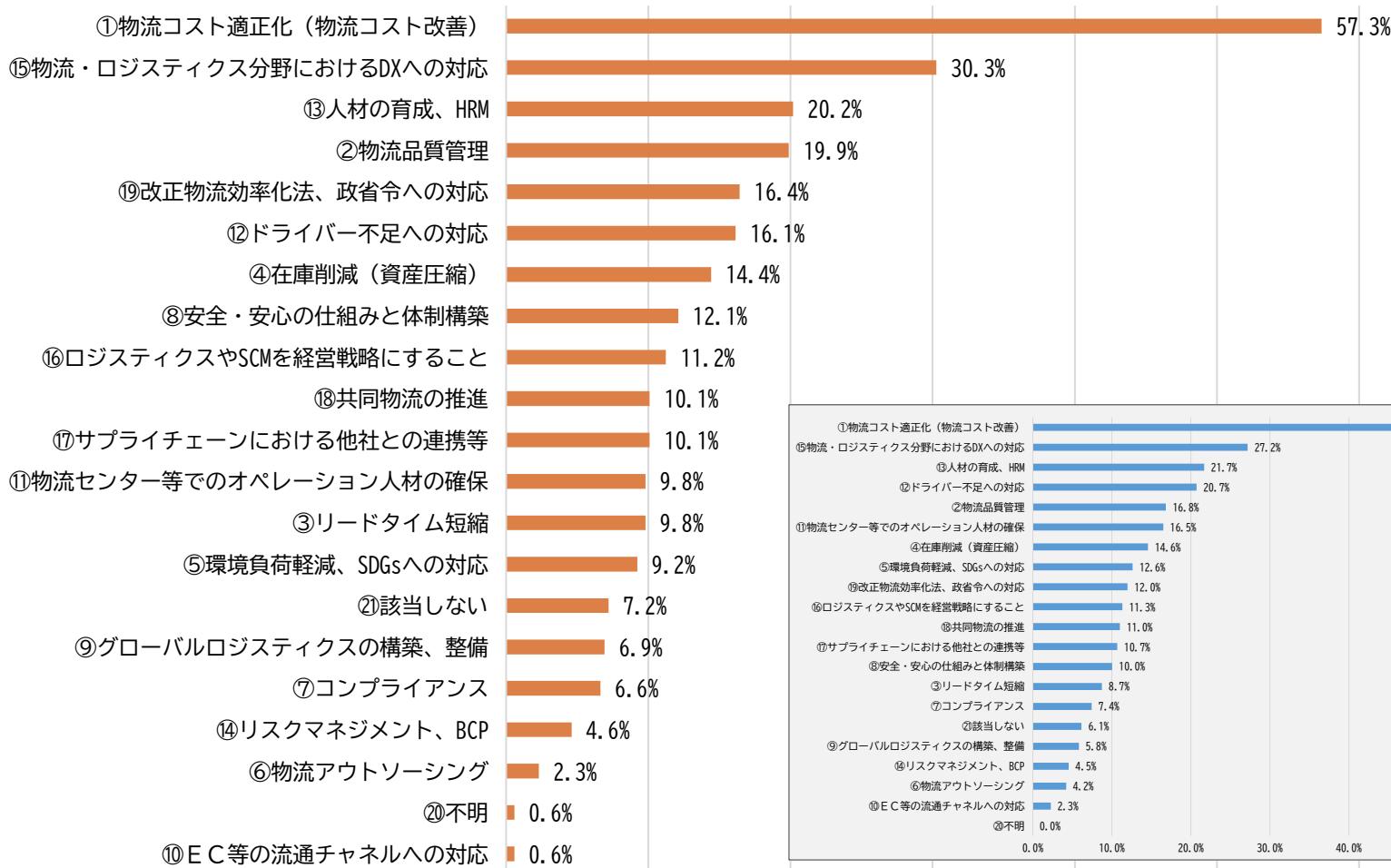


n=347

■ 製造業 ■ 物流業 ■ 流通業 ■ サービス業 ■ その他業種

1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

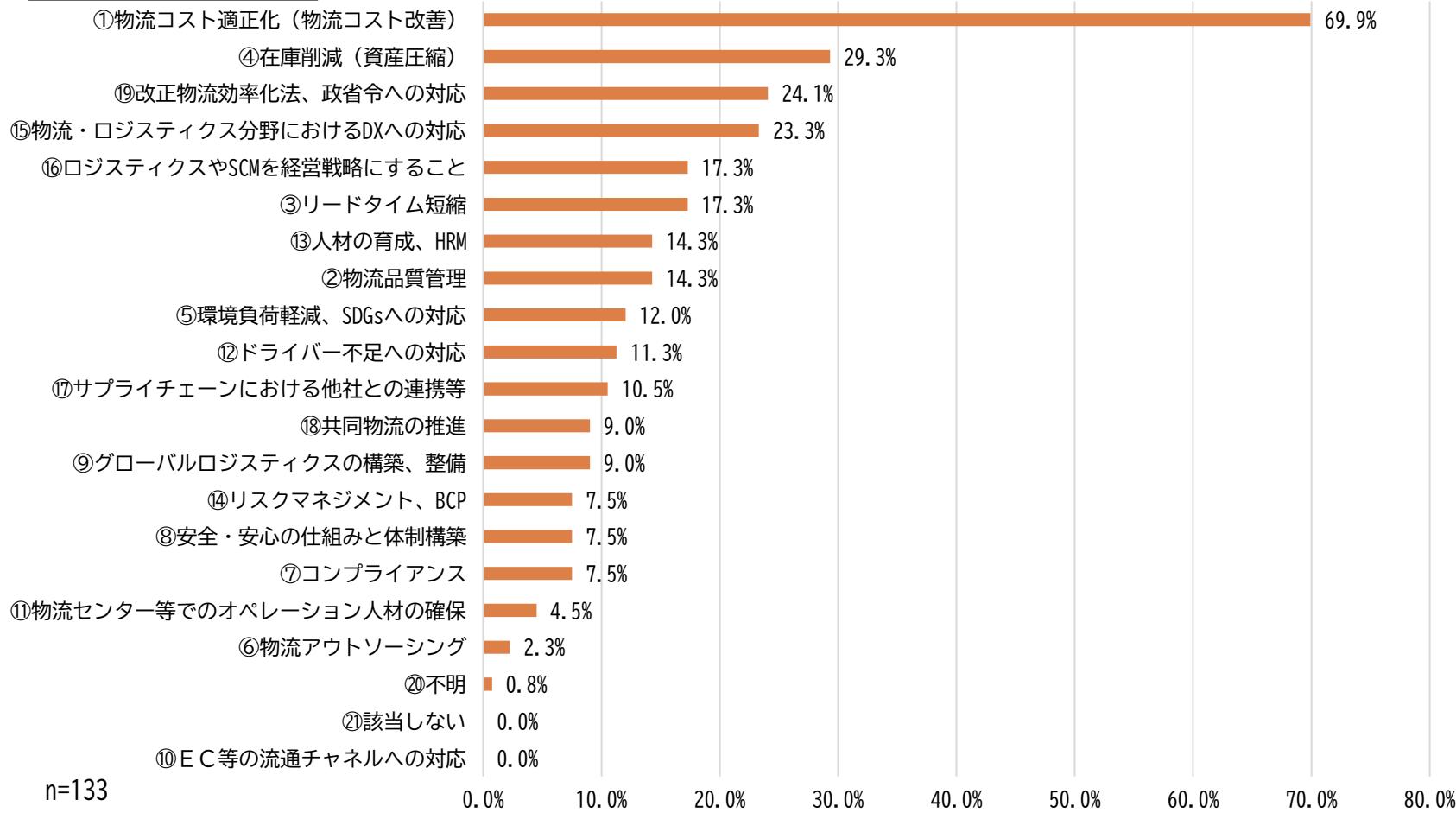


n=347

1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

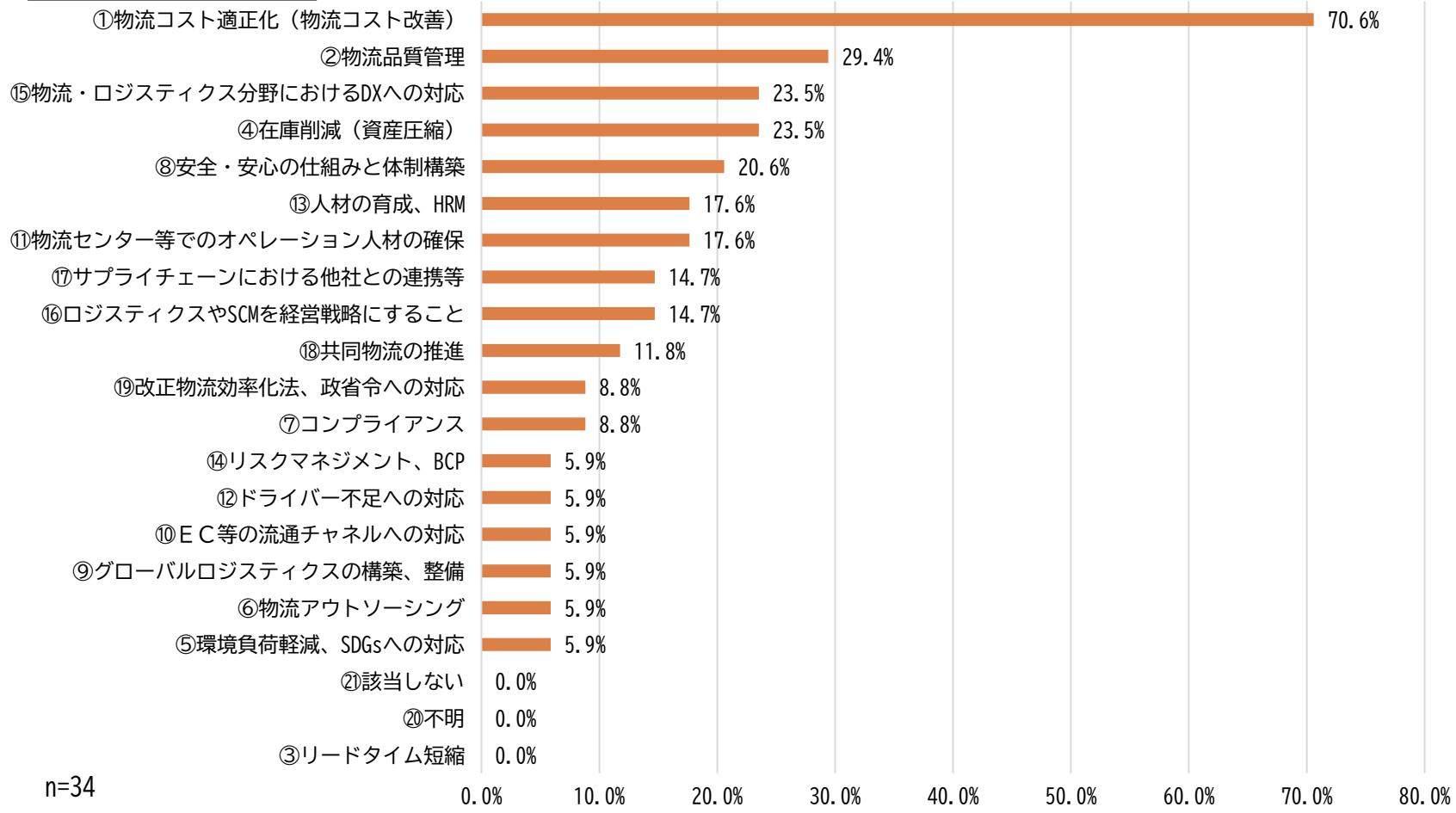
【製造業の回答集計】



1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

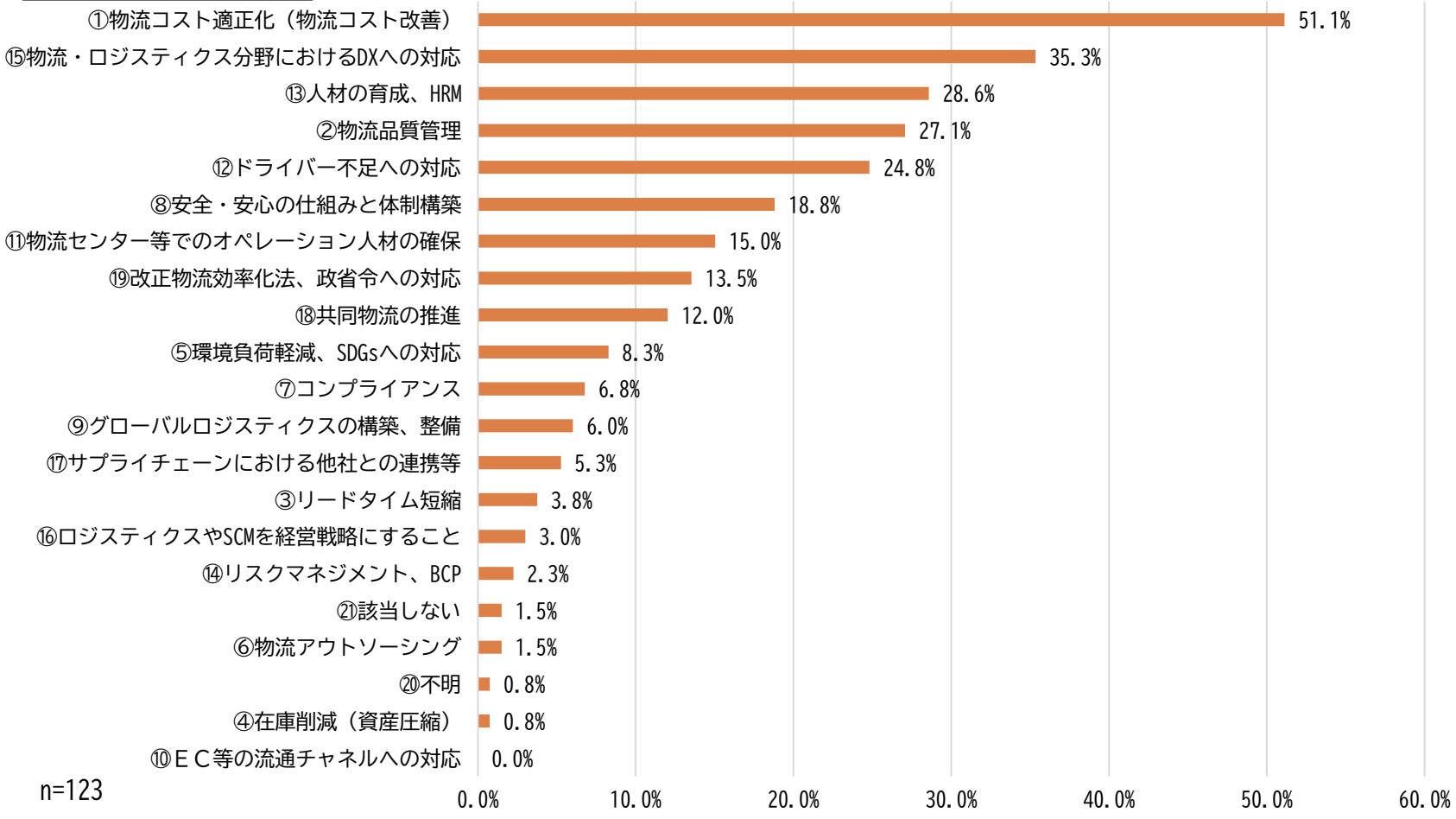
【流通業の回答集計】



1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

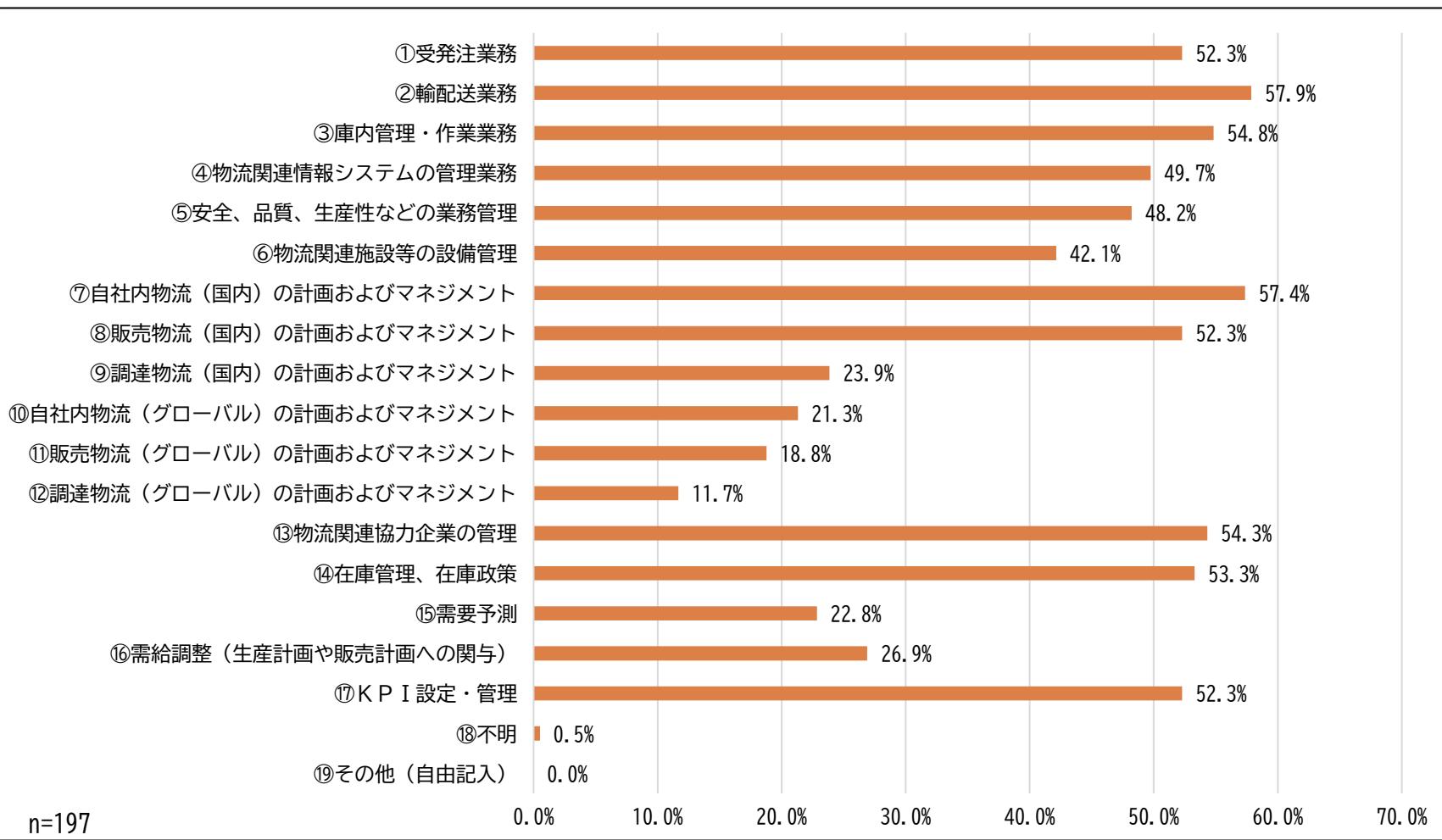
【物流業の回答集計】



1-2. 物流・ロジスティクス・SCM部門の担当業務

【荷主企業の方のみお答えください】

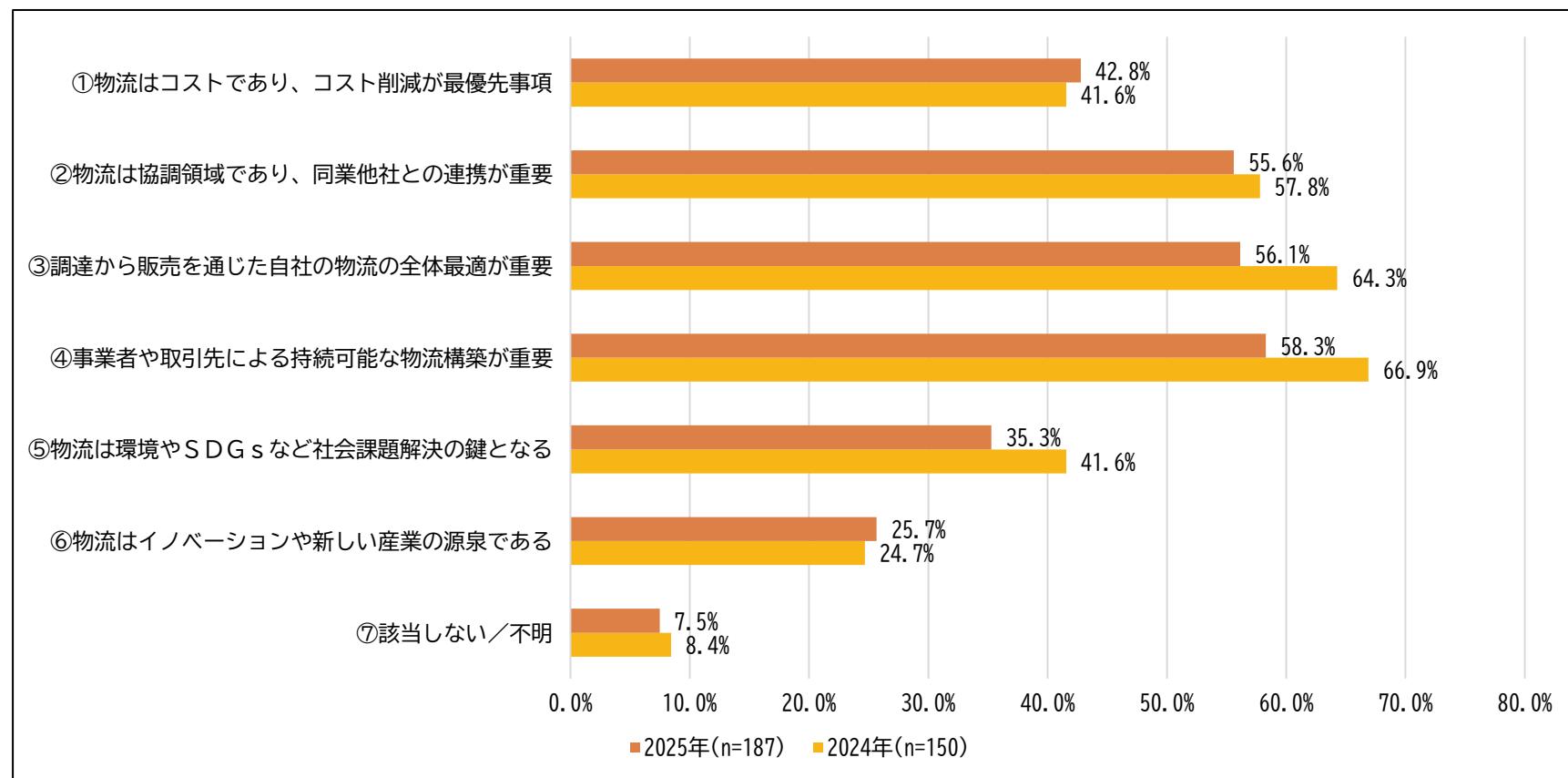
貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門の担当業務をお選びください（複数選択可）。



1-3. 経営層における物流に対する認識

【荷主企業の方のみお答えください】

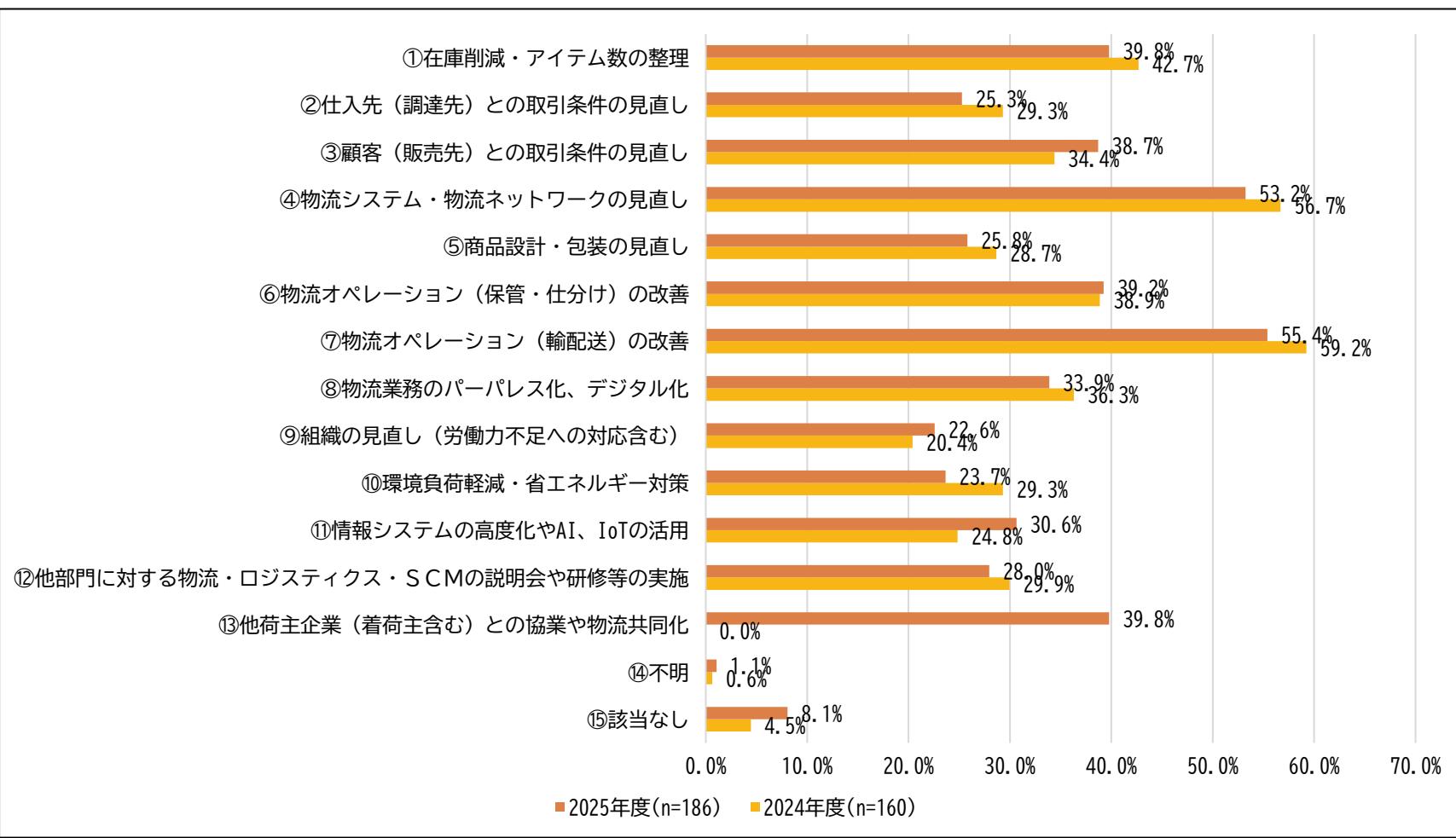
貴社（主に経営層）における物流に対する認識について該当するものを、下記の選択肢からすべてお選びください（複数選択可）。



1-4. 過去1年程度に取り組まれた施策

【荷主企業の方のみお答えください】

貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門が主導した、過去1年程度に取り組まれた施策をお聞かせください（複数選択可）。



1-5. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| 課題 | |
|----------|--|
| アパレル・繊維等 | <p>発送頻度の集約やリードタイム延長がしにくいこと。</p> <p>売れ行きに合わせた物量注文を日々行っている。同業他社同様の計画生産では無駄に在庫が増えてしまい、一方で読みを誤ると欠品が発生するというリスクとの調整を日々行っている。発注予測のAI対応で効率を更に上げたいが、行き過ぎると工場の維持が難しい状況にもなり得るので、慎重な対応を求められる。</p> |
| 医薬・医療機器 | <p>自社所有の物流拠点・生産拠点の立地や償却コストが足枷になって、フレキシブルな物流ネットワークの構築を進められない。</p> <p>共同配送化、パレット共通化。</p> <p>顧客に対する共同配送化。</p> <p>共同物流を進めたいが、物流導線がマッチするパートナーが見つからない。</p> <p>物流環境変化に対する得意先（着荷主）側の意識が低く、商慣行の見直しのための施策を推進しようとしても理解と協力が得られない。</p> <p>仕入れ値から物流費を分解できない。</p> |
| 化学 | <p>海外物流、コンテナ輸送を考えられた包装形態になっていない。バラ積みも多い。</p> <p>地政学的リスクに伴う原材料のリードタイムの長期化・不安定化。</p> <p>着荷主の商習慣改善（特に納品時における付帯作業。特定の業種で特に課題）。</p> <p>商慣習、共同物流化。</p> <p>物流コスト上昇分の価格転嫁。</p> <p>物流費用の高騰。</p> <p>路線配送業者の減少。</p> <p>個装品危険物（ドラム、一斗缶など）の輸送網安定化。路線会社が敬遠する傾向があるため。</p> <p>危険品保管や輸送（国内トラック手配、ドレージなど）。</p> |

1-5. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| 課題 | |
|-----------|--|
| 機械器具・精密機器 | <p>グローバルに展開してサプライチェーンが複雑になっているため、サプライチェーンそのものの効率化や在庫削減が課題である。</p> <p>新興国との差、人手不足、日本の商習慣、日本ならではの物流事業形態。</p> <p>コストダウンとDX対応、物流共同化と商習慣の改革。</p> <p>国内物流網の幹線便の積載率の低下。</p> <p>浜松地区から全国への大型鍵盤共同配送、サプライチェーンの見直し（海外生産拠点配置等）。</p> <p>取り扱う商材について、電池などの小物から冷蔵といった大型商品まで多岐に亘る荷姿があり、それぞれに荷扱い特性及び留意点がそれぞれに異なっている。加えて、倉庫内作業者・ドライバー・事務人員といった各所での人材不足問題が顕在化していることから、荷扱い特性や品質向上に関するノウハウ継承も困難になっており、事業品質事故が高止まりとなってしまっている。</p> <p>特に海外調達品の仕入 納入口ット数量、調達コスト、調達リードタイム。</p> <p>国際戦略港湾発着基幹航路の細線現状。</p> <p>メーカー直送業務。</p> <p>積載率の向上。</p> |
| 食品 | <p>資材調達先がサステナブルな物流供給体制が取れるか不安。ローリードライバー不足で物流供給体制が不安。</p> <p>レンタルパレット（規格や品質基準など）がメーカーによってさまざまである事。</p> <p>流通への納品でドライバーの付帯作業（種まきなどの商慣習）があり、荷待ち荷役時間が減少しない。</p> <p>輸配送効率の向上。</p> <p>ドライバー不足に向けて持続可能な物流体制の構築。</p> <p>企業間情報共有。</p> <p>商慣習（納品期限や販売期限）の3分の1ルールを得意先との交渉でいかに緩和できるのかが課題。</p> <p>首都圏や一部都市部において、CVS、ドラッグストア等のセンターの納品時間が午前中必須、9:00-11:00などの制約が多く、通常の共配便ではマッチしないことが多くなっている。</p> <p>長時間待機など。</p> |

1-5. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| | 課題 |
|----|--|
| 食品 | 商慣習：納品に至る付帯作業の解消。 発荷主のロジスティクスに関する理解向上（人材の世代交代によるスキル不安）。 地方配送の維持、共配促進。 販売計画差異による在庫増、閑散期作り貯めを行う商材の保管料増。 納品時の附帯作業、ドライバーによるフォークリフト運転。 納品LT短縮への理解度不足（着荷主側）。 トラックドライバー不足・輸送力低下を背景する「運べなくなるリスク」、物流共同化の推進では、企業間調整・運用面にある壁を乗り越える必要がある。 メーカーのSKUの拡大。 納品日延長（D2納品など）。 物流共同化：共同化を進める中で、商慣習によるハードルは高いと感じている。例えば弊社では朝5時に受注を〆るが、大半の卸やレギュラーチェーンではまだ昼〆が多く、調達物流の共同化においては弊社にとつて納品時間が遅くなる。また、配送の共同化においても、弊社では夜間配送を実施しておりますが、大半の卸やレギュラーチェーンでは日中配送が多く、共同化が中々進んでいない。 商慣習の改善、共同物流、DX。 サプライチェーンマネージメントという言葉の理解がそもそも足りない。 地方発貨物が主となっており帰り荷の確保や、調達先事業者の集車力低下が健在化。 健康食品を扱う特性上、賞味期限管理や在庫回転率の最適化がサプライチェーン上の課題となっている。 需要予測の精度向上や在庫管理体制の見直しを進めることで、商品コストと納品ロット、商品ロスの低減と安定供給の両立、在庫過多への対応などが課題である。 積載効率の悪化に対する対応、工場のパレット積載方法（トラックの側面から積載できない）。 納品リードタイムの延長。 調達物流の見える化を進めて、コスト改善すること。 食品・飲料系の顧客は積込みを発メーカー手配で行う一方、納品先（卸・流通など）では自主荷役の慣習が依然として残っている。 人不足によるスポットワーカー・外国人依存（生産性・作業品質低下）。 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

1-5. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| 課題 | |
|-------|---|
| 食品 | リードタイム延長、納品期限1/2への緩和、特売・新商品の需要変動。 |
| | いわゆる「食品の賞味期限3分の1ルール」への対応。食品の廃棄ロス削減。共同配送の推進。 |
| | 季節波動、多品種・小ロット、積載率、パレット化、価格転嫁、要員不足、商慣習、デジタル化、施設老朽化。 |
| | 荷主、荷受先の認識差。 |
| | 温度管理、リードタイム、需要変動、調達能力、配送網の複雑化。 |
| | 新トラック新法等。 |
| | リードタイムが短く対応が困難になってきている。 |
| 日用雑貨等 | 業界内の商慣習。 |
| | 取り扱いSKU増加に伴う効率悪化。 |
| | サプライチェーン上のプレイヤー間でのデータサイロ化。利害意識が強いとうまくいかないと考える。（特にコストありきとなると困難） |
| | 化粧品を扱っておりラストワンマイルを各運送会社に依頼していますが、バラ混載の業者における荷扱いによる破損が多いこと。出荷作業時に様々な工夫をしてもすべて無駄になっている。物流コストやDXや物効法等々言われてますが、そもそもその物流の基本（正しく届ける）が不完全なのはどうなのかと考えている。 |
| 日用雑貨等 | ラストワンマイル（宅配）の配達員の高齢化・減少。 |
| | 同業他社との共同配送。 |
| | パレタイズを検討していただくか、ツーマン体制ベースでの費用見直しを行って欲しいものの、上流の3PLが理解しておらずむしろ値下げ要求してきている。 |
| | サプライチェーン上のプレイヤーでの部分最適。 |

1-5. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| | 課題 |
|----------------|--|
| 建設・建材 住宅設備等 | <p>商慣習（即納要望、邸別仕分け）、物流コスト上昇、DX化への対応遅れ。 小さいもの（ネジ類）から大きく重量物まで在庫しており、製品が壊れた、不具合発生時に必要なアイテムを即出荷対応をしなければいけない為、部品の回転数も高いものからほとんど回転しないものまで在庫をしている。この在庫を削減し、効率的な在庫として運用したい。 建設業界も物流と同様に深刻な人手不足であるため、ドライバー不足だけの訴求は実行しにくく荷受け側企業も合わせ総合的に効率化を図る必要性がある。 カンバン／序列配送 運転手自主荷役。 商習慣。 リードタイムが短い等の商慣習、ばら積みばらおろし。</p> |

| | 課題 |
|-------|---|
| 自動車関連 | <p>メーカーの垣根を超えた物流課題解決、物流共同化 地域ごとの取引慣習の違いにより一元的な効率化が難しい場合がある。 自動配送やEVトラック導入の促進。 安定的生産。 国際調達品の拡大。 製造ライン不調時の調達物流とのアンマッチの際の荷の吸収代不足。 物流取扱い作業エリアに人が集まらなくなる事を想定し、人から機械に置き換える自動化が必要。</p> |

1-5. サプライチェーン別課題

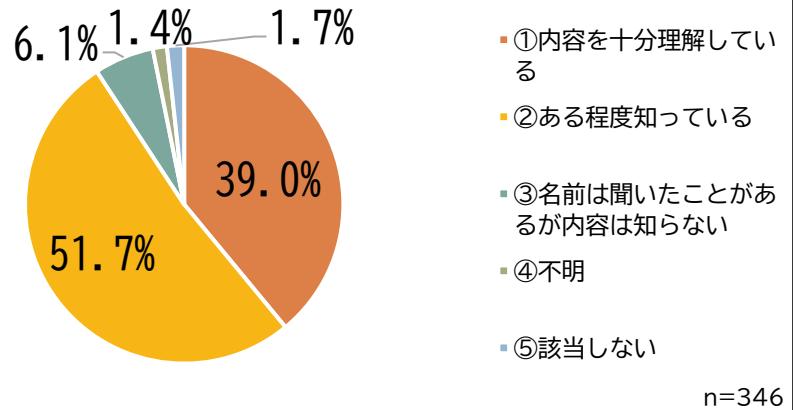
貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

| 課題 | |
|----|---|
| 全般 | ・メーカーリードタイム延長、納品先は変更無し、しづ寄せが中間流通へ。 ・車両や人員、その他設備のコスト増、物流事業の値上げ対応が必要。 拠点の規模、人員体制がバラバラ。その中で改善が必要だが、さまざまな関係者が存在しており、調整が難しい。 ・レンタル業の為、リバース物流と関連業務が存在しており、業務が複雑。レンタル物流の専門家が見つからない。 ・過去の体制を変えることについて社内の抵抗が強い。 お客様とお話させていただき感ずるところは、サプライチェーンにおいて、在庫管理や出荷効率の最適化が課題となるケースがあると認識しております。また、人材育成も課題と感じます。 コスト効率：価格変動への対応 長距離輸送対応：運転手不足 サプライヤーからお客様までの全体の物流コストを分かりにくい。（それぞれの支払先がバラバラの為）。 サプライチェーンの全体が見えにくい為、全体最適での取組では無く、個別最適になりがち。 データや業務の標準化に対する理解が浅く、基盤を整える機運になっていない。商慣習で既存が正しいという前提で考えてしまっている。データ・システムに関する理解が十分でない、全体最適視点よりも個別最適視点になりがち。 データ連携が出来るマスター等の標準化が課題。顧客単位の運用の多様化。 小口のパレット回収。 異形重量物の共同輸送、パレット化の難しさ。 セキュリティを担保した状態での輸送。 サプライチェーンの上流・下流に関する情報の取得が困難。よって作業、保管の数量見込みが立たない。 関係者の物流に関する知識が足りない。 経営における各社ITシステムのクローズな環境によりデータの連携がしづらく、またマスターの整備環境もないため各社の連携に関するハードルが高いことから、投資判断が遅れている。 物流効率化、ピッキング梱包の効率化、入荷作業効率化。 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

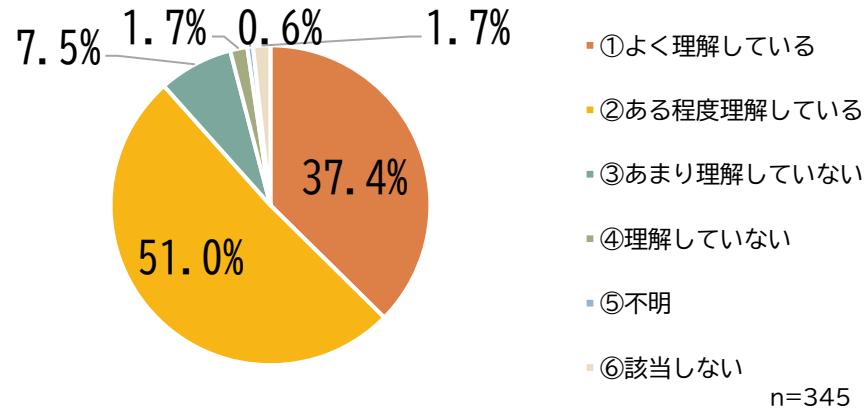
2025年度JILS会員アンケート集計結果報告

2-1. 改正物流効率化法への対応

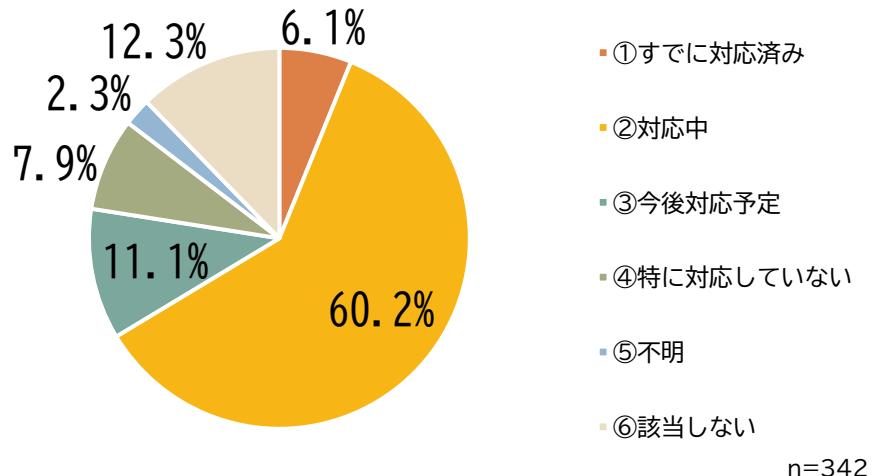
改正物流効率化法についての認知度をお聞かせください（1つ選択）。



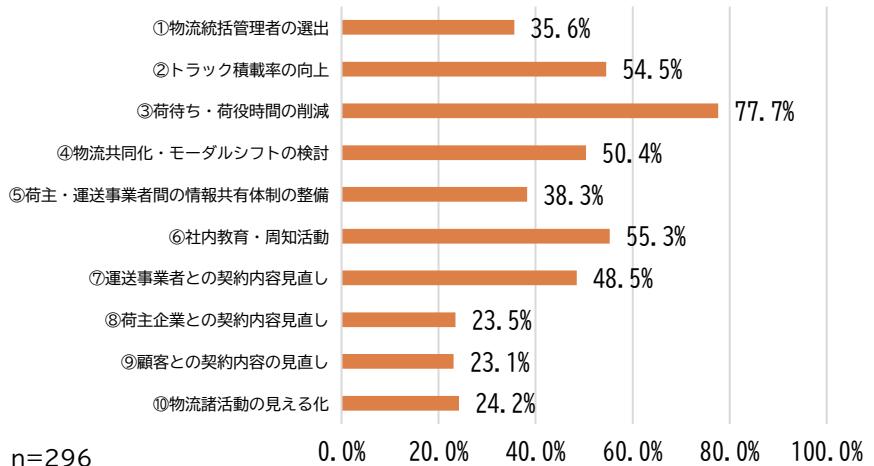
改正物流効率化法の目的を理解されていますか（1つ選択）。



貴社では、改正物流効率化法に関する社内対応を進めていますか（1つ選択）。

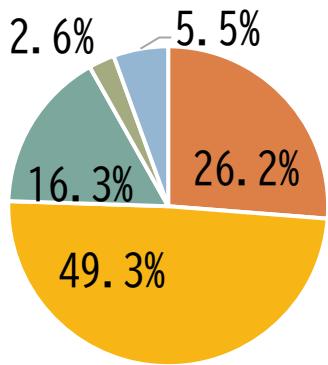


質問15.にて、対応を進めている（または予定している）内容について、お聞かせください（複数回答可）。



2-2. トラック新法への対応

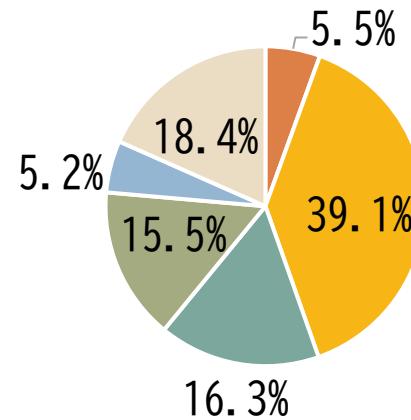
トラック新法（「貨物自動車運送事業法の一部を改正する法案」および「貨物自動車運送事業の適正化のための体制の整備等の推進に関する法案」）についての認知度をお聞かせください（1つ選択）。



- ①内容を十分理解している
- ②ある程度知っている
- ③名前は聞いたことがあるが内容は知らない
- ④不明
- ⑤該当しない

n=343

貴社では、トラック新法に関する社内対応を進めていますか（1つ選択）。

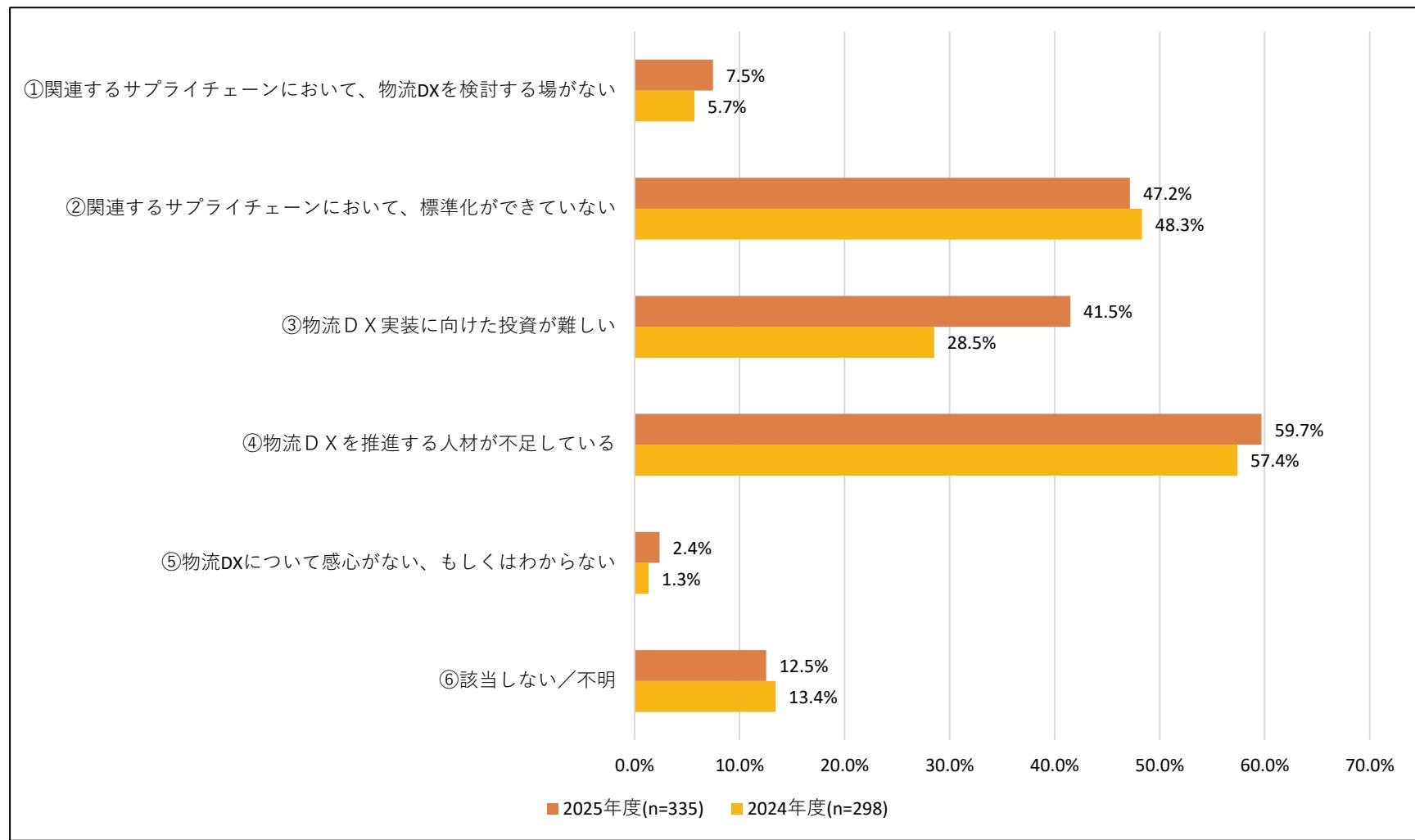


- ①すでに対応済み
- ②対応中
- ③今後対応予定
- ④特に対応していない
- ⑤不明
- ⑥該当しない

n=343

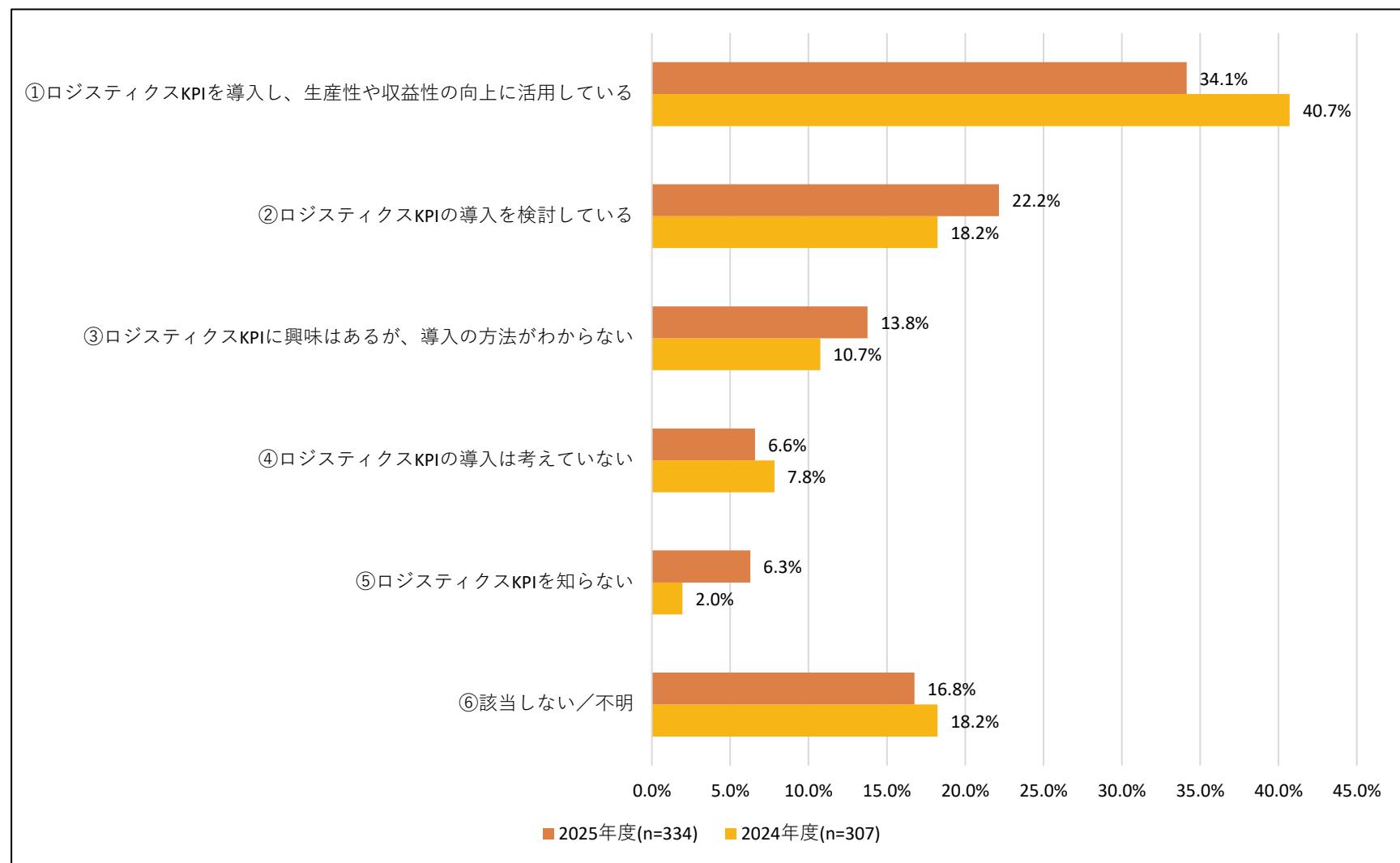
3. 物流・ロジスティクス分野におけるDXの課題

物流・ロジスティクス分野におけるDX（機械化・デジタル化を通じて物流のこれまでの在り方を変革すること）について、課題をお聞かせください（複数選択可）。



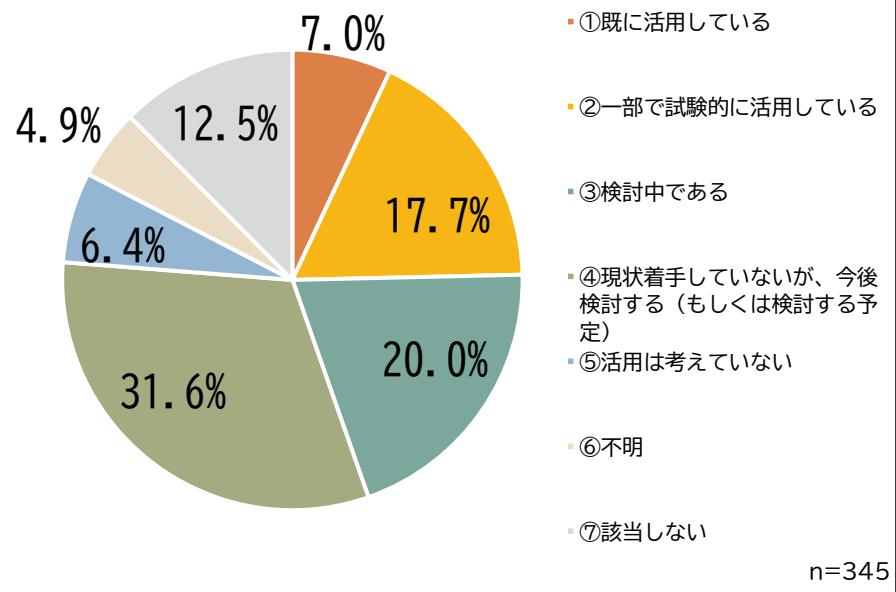
4. KPI活用状況

ロジスティクスKPI (key performance indicator) の活用状況をお聞かせください（1つ選択）。



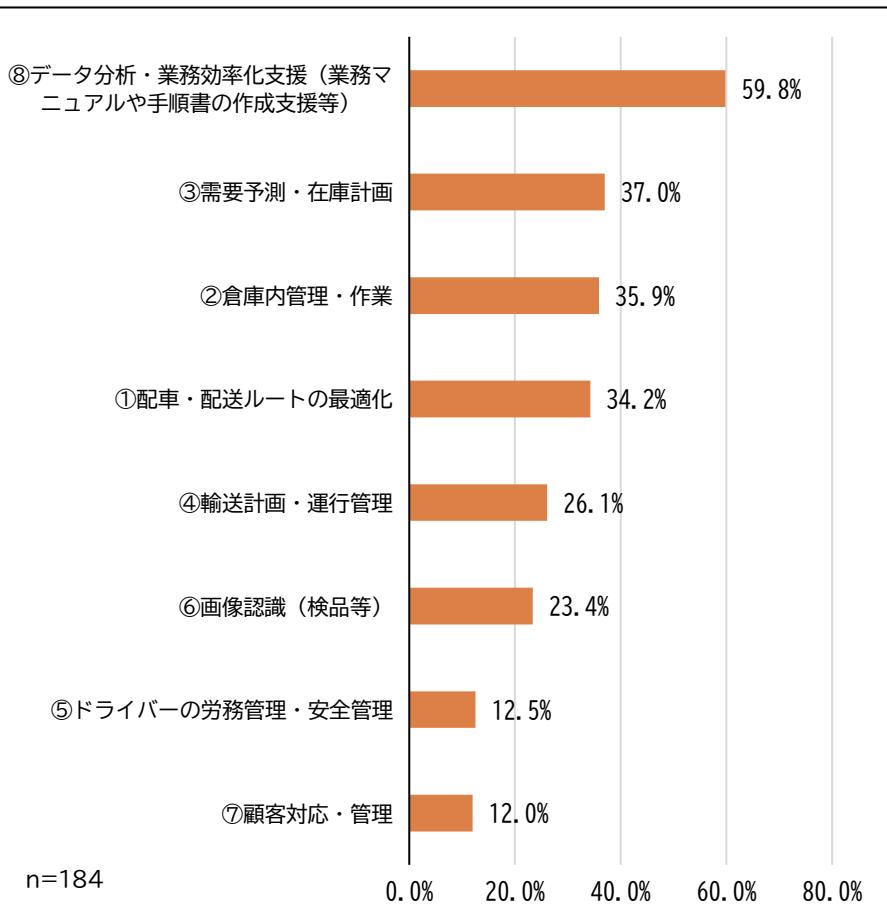
5. 生成AIの活用

貴社では生成AIを物流・ロジスティクス業務で活用していますか（1つ選択）。



設問22.にて、①既に活用している ②一部で試験的に活用している ③検討していると回答した方にお伺いいたします。

生成AIを活用している、または検討している分野をお聞かせください（複数回答可）。



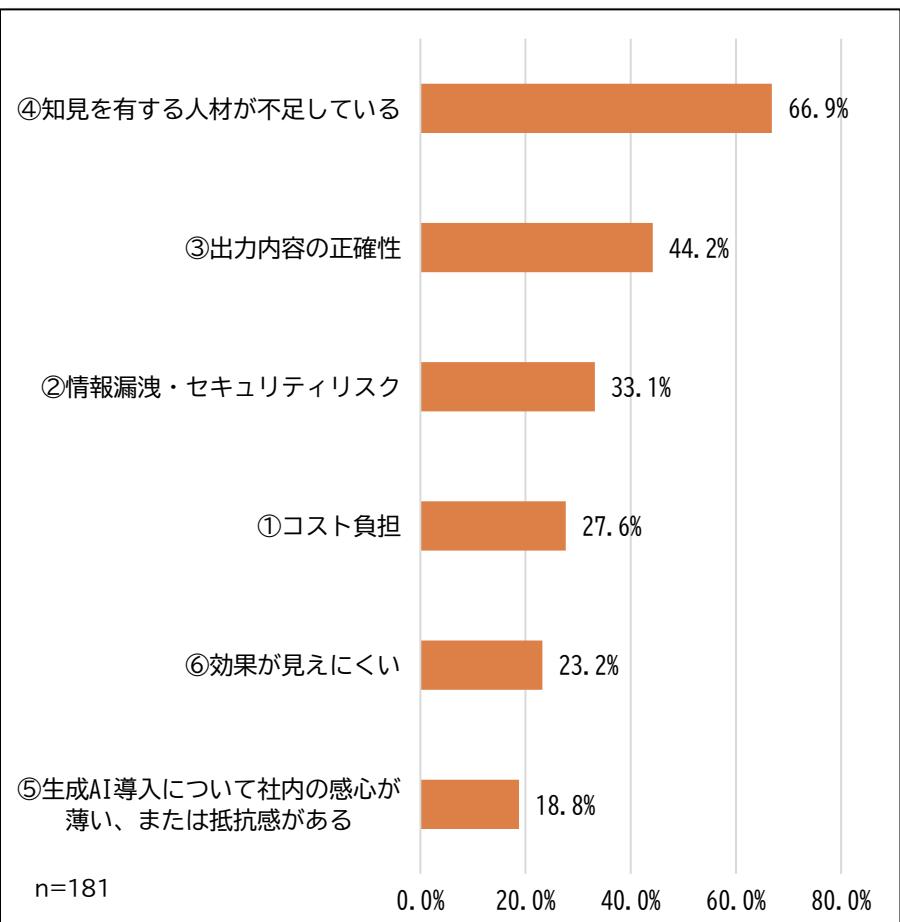
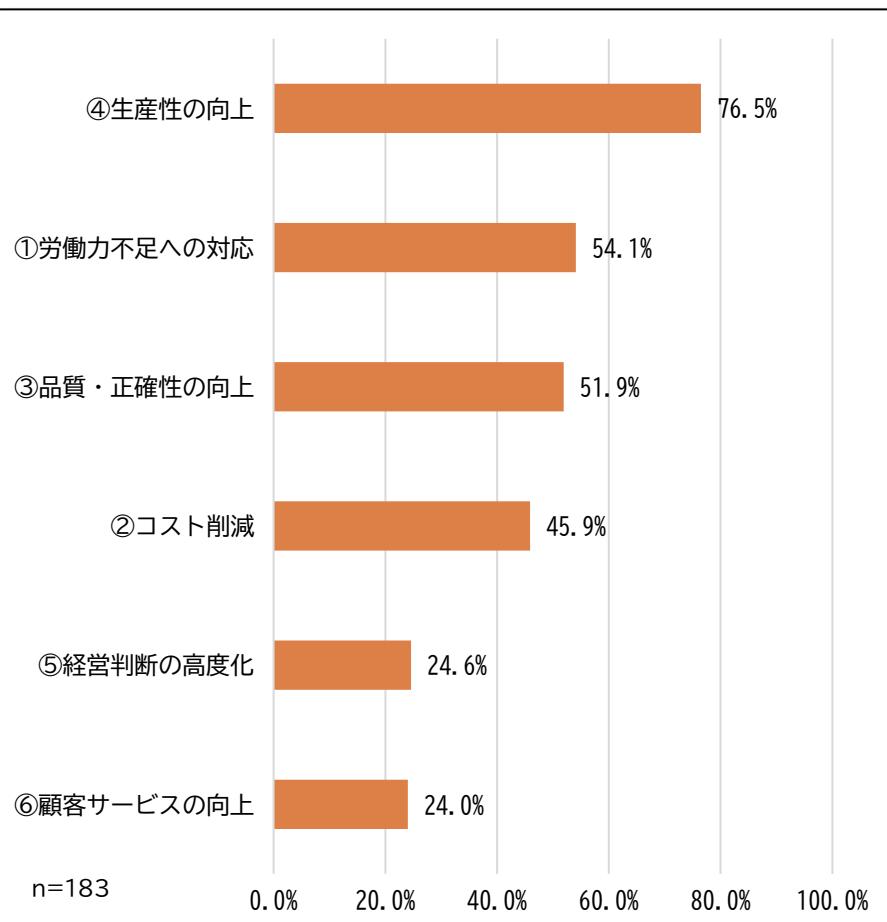
5. 生成AIの活用

設問22.にて、①既に活用している ②一部で試験的に活用している ③検討している と回答した方にお伺いいたします。

生成AIを活用する主な目的をお聞かせください（複数回答可）。

設問22.にて、①既に活用している ②一部で試験的に活用している ③検討している と回答した方にお伺いいたします。

生成AI活用にあたっての課題をお聞かせください（複数回答可）。



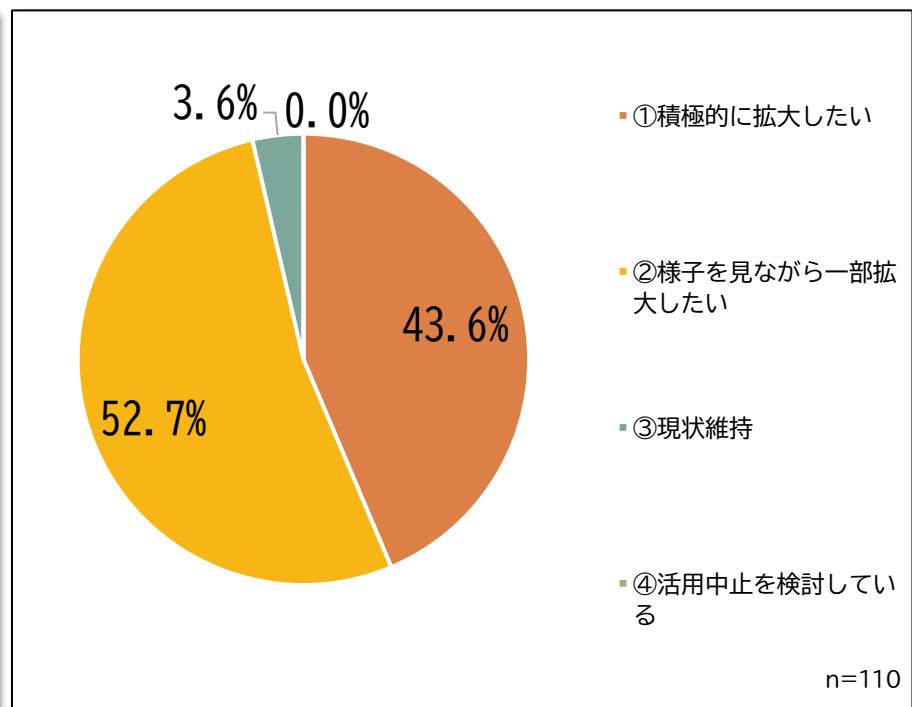
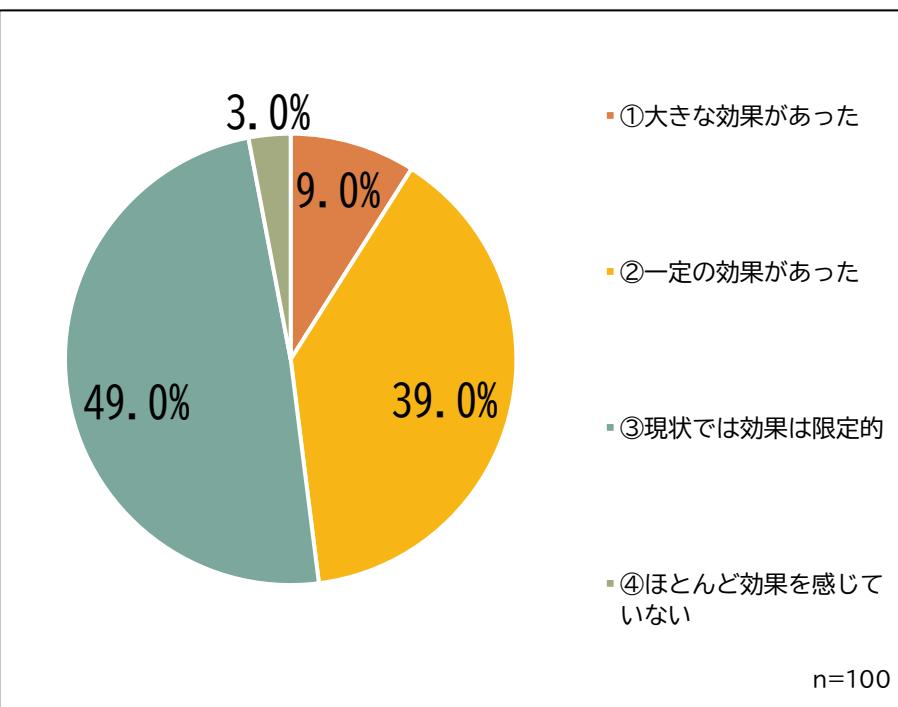
5. 生成AIの活用

設問22.にて、①既に活用している ②一部で試験的に活用している と回答した方にお伺いいたします。

生成AI活用による効果をどの程度実感していますか（1つ選択）。

設問22.にて、①既に活用している ②一部で試験的に活用している と回答した方にお伺いいたします。

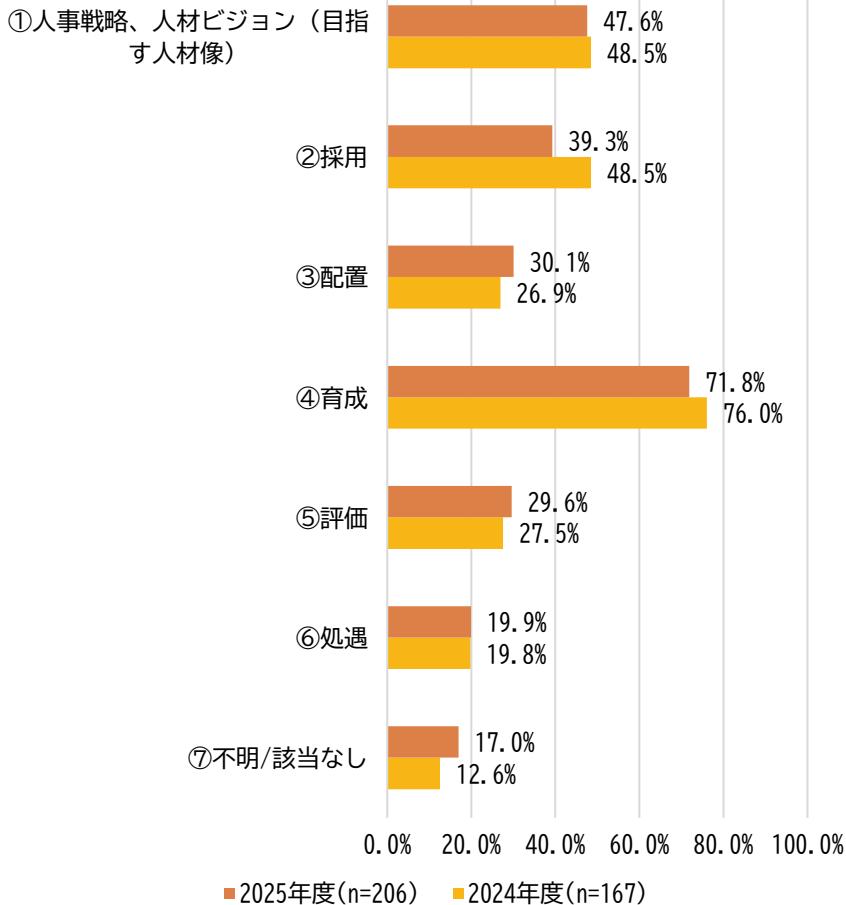
今後、生成AIの活用を拡大する予定はありますか（1つ選択）。



6. HRMの主な課題領域

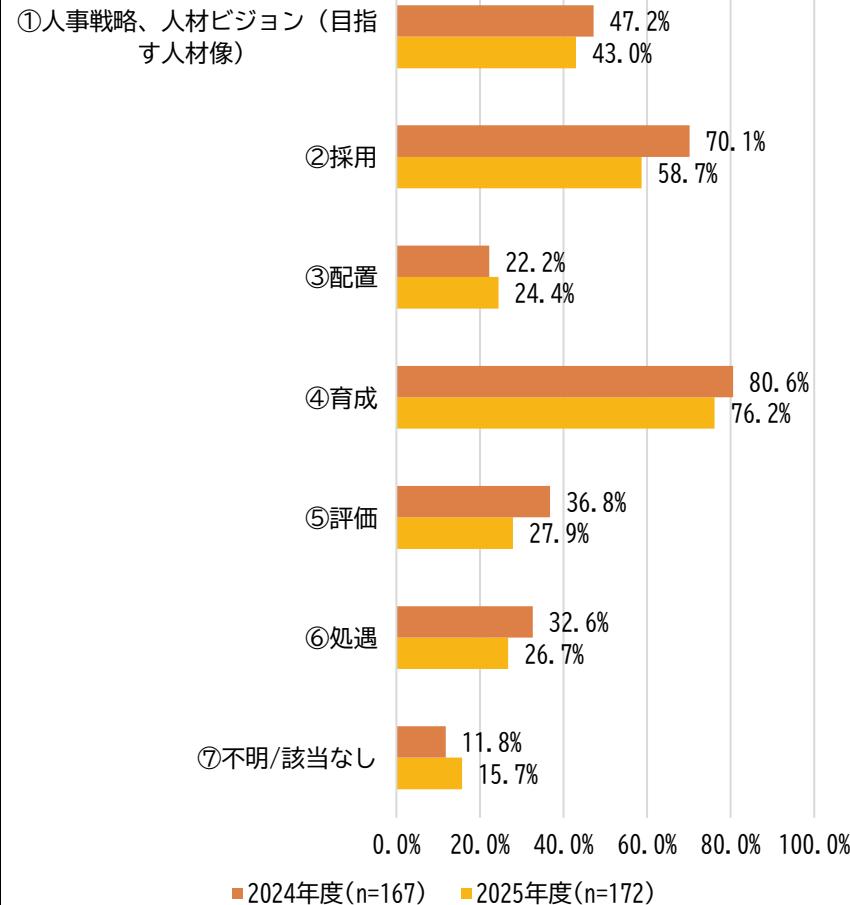
【荷主企業の方のみお答えください】

貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門のHRMに関する主な課題領域をお聞かせください（複数選択可）。



【物流企業の方のみお答えください】

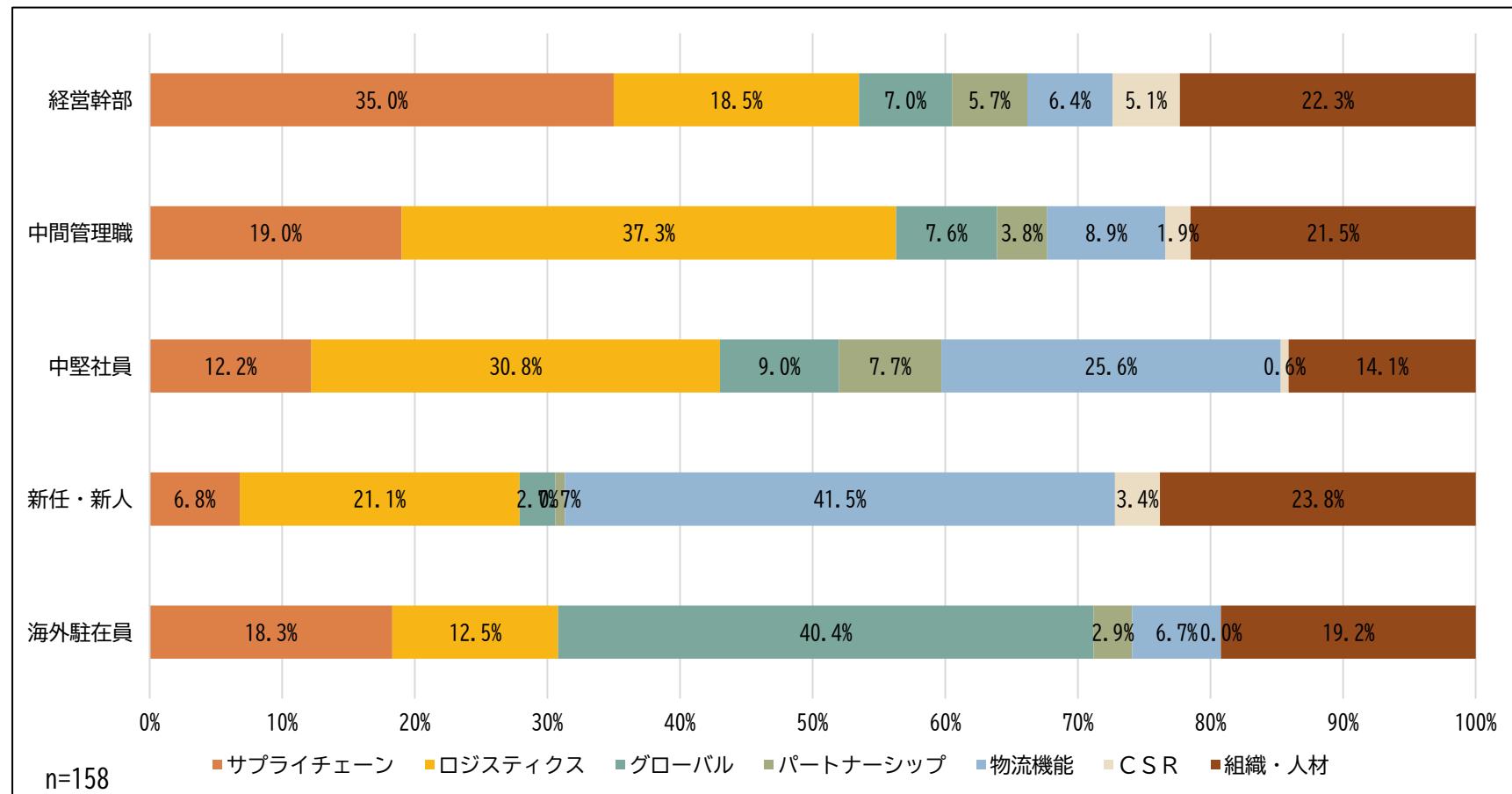
貴社のHRMに関する主な課題領域をお聞かせください（複数選択可）。



7-1. 人材育成における重点テーマ【荷主企業】

【荷主企業の方のみお答えください】

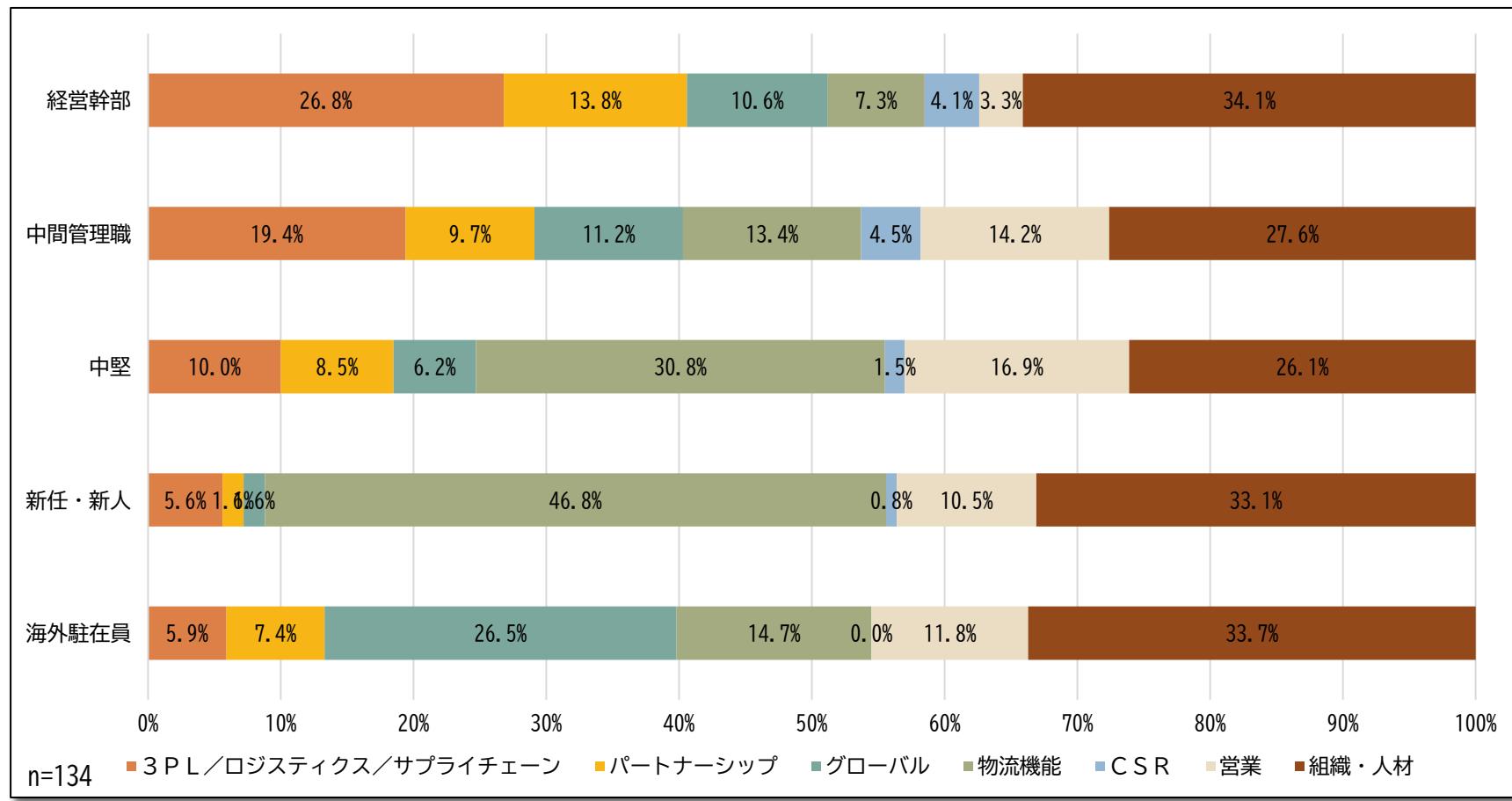
物流・ロジスティクス・SCM分野の人材育成について、以下に示す領域において課題と感じている箇所にチェックをお願いします（複数選択可）。



7-2. 人材育成における重点テーマ【物流企業】

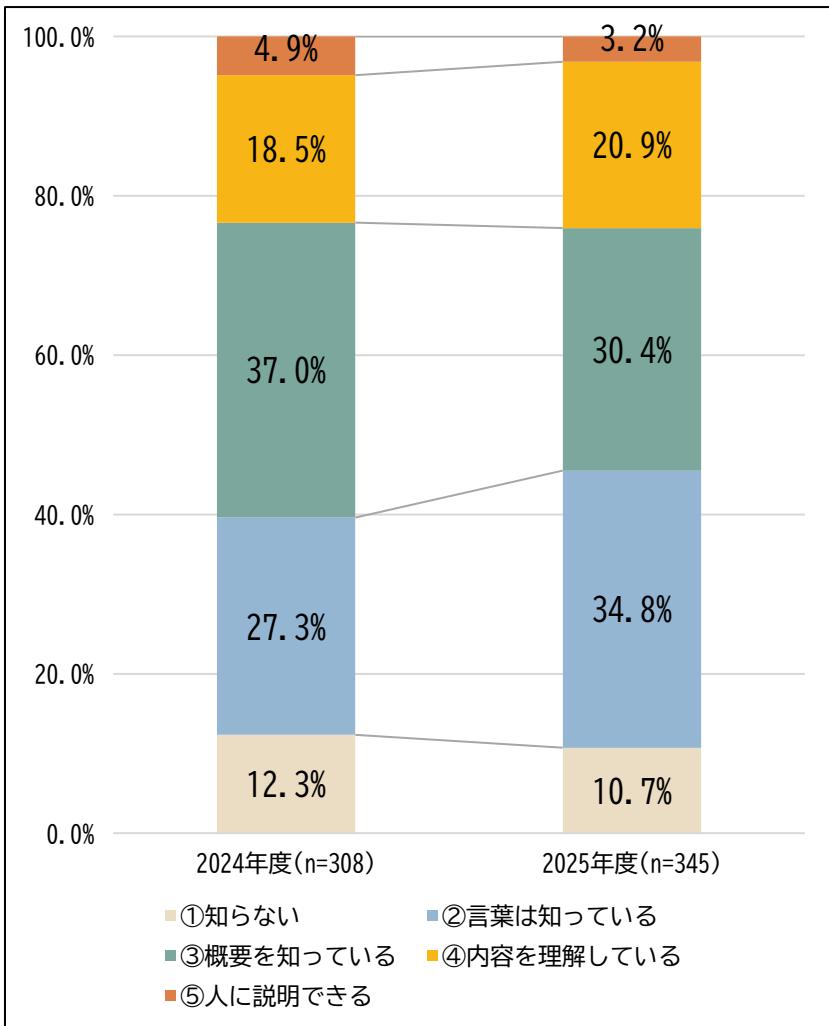
【物流企業の方のみお答えください】

貴社の人材育成について、以下に示す領域において課題と感じている箇所にチェックをお願いします（複数選択可）。

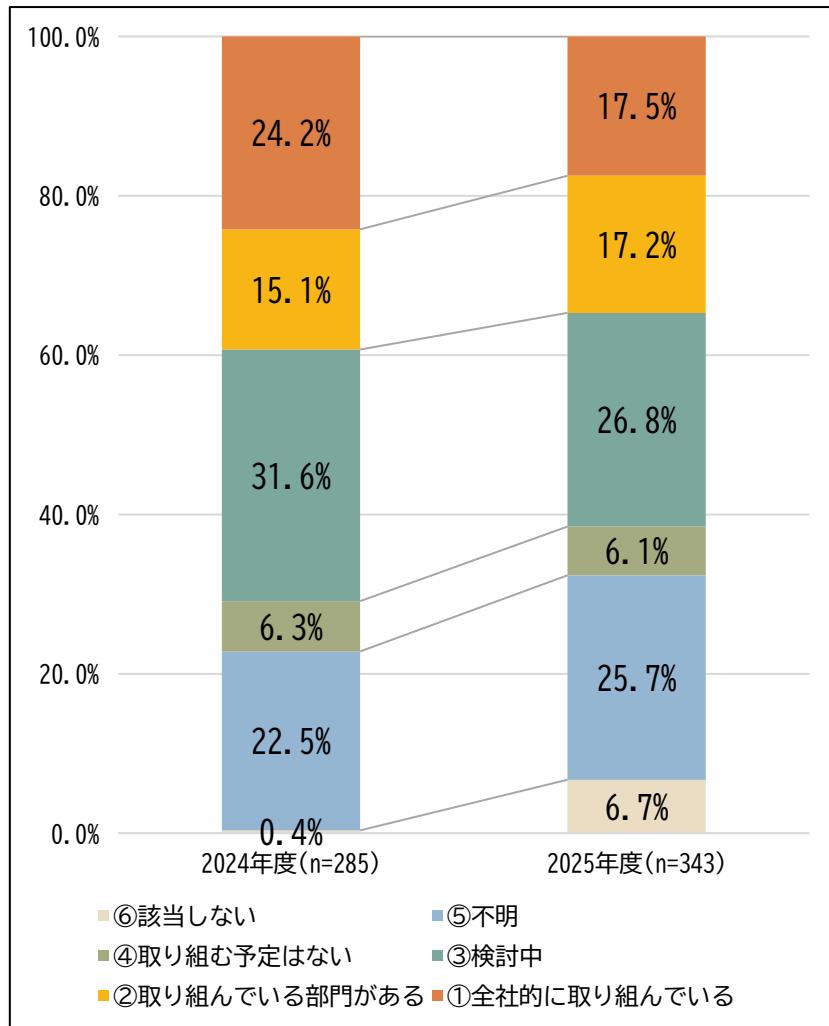


8. 人的資本経営

「人的資本経営」についてお聞かせください。「人的資本経営」をご存じですか（1つ選択）。



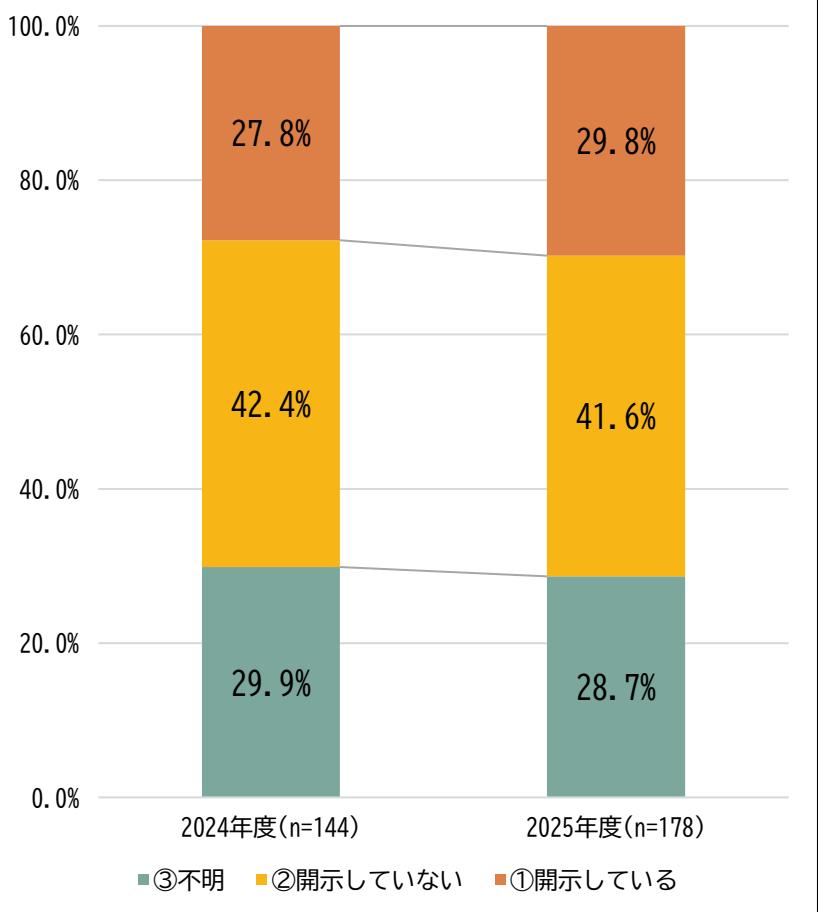
貴社の人的資本経営の取り組み状況についてお聞かせください（1つ選択）。



8. 人的資本経営

【人的資本経営に既に取り組んでいる企業にお聞きします】

貴社は人的資本情報を、社外に開示していますか（1つ選択）。



【人的資本経営に既に取り組んでいる企業にお聞きします】

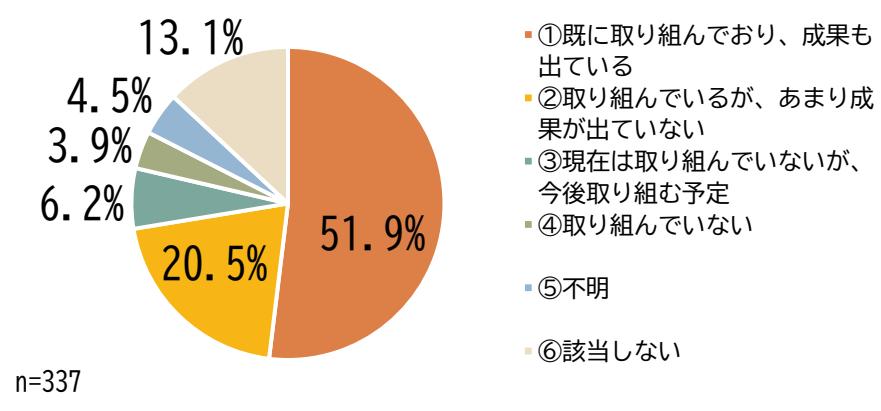
どのような項目を情報開示していますか（自由記入）。

- ・女性管理者比率、障害者雇用、外国人雇用、健康経営
- ・人材戦略と取り組み実績
- ・ダイバーシティ&インクルージョン推進方針など
- ・人財の確保・定着、人財育成・能力開発、人事制度基盤の刷新
- ・従業員一人ひとりを「人財」と位置づけ、その価値最大化を目指す取り組み
- ・採用・教育プログラム・評価制度など
- ・人材育成施策やそれに伴う投資
- ・人権方針の策定や健康経営の実施など
- ・エンゲージメント指標や働きやすさ指標を毎年グローバルで測定。
- ・「ダイバーシティ&インクルージョン」「人材育成・組織風土づくり」「健康経営推進」による人的資本経営の実践
- ・人財育成、多様性の推進、従業員データなど
- ・人的資本投資額、女性管理職比率
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの項目

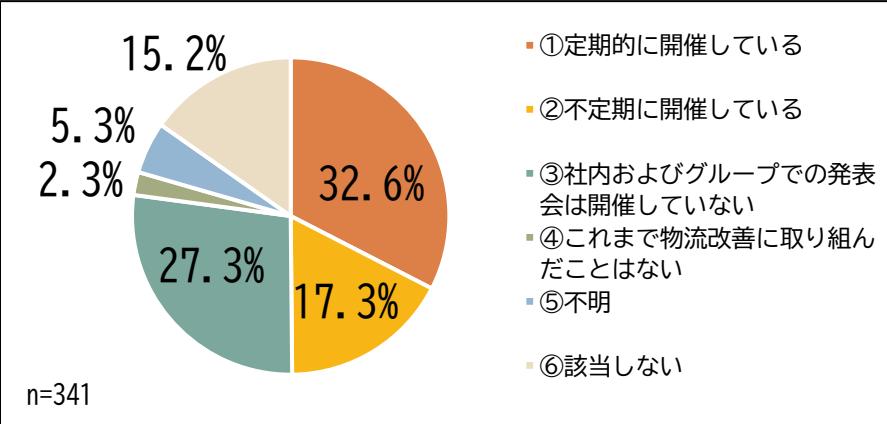
2025年度JILS会員アンケート集計結果報告

9. 物流改善活動

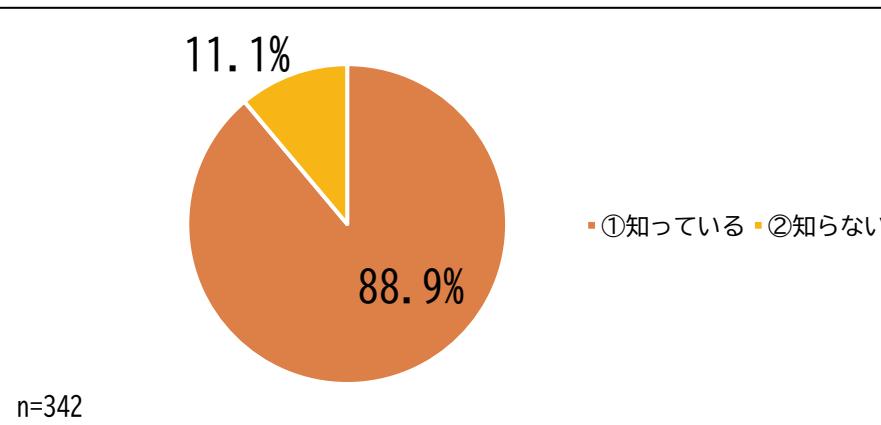
物流改善活動への取り組み状況について、お聞かせください（どれか1つ）。



社内もしくはグループによる物流改善活動の成果発表会についてお聞かせください（どれか1つ）。



JILSでは、全国の物流現場、物流部門で取組まれた優れた物流改善の成果を発表し、実務者間で効率化・合理化のノウハウを共有する「全日本物流改善事例大会」を毎年開催しています。本大会のことを知っていますか（1つ選択）。



JILSでは物流現場改善に積極的に取り組む企業の活動を応援するため、物流現場改善の先進企業を認定する「物流現場改善優良認定制度」を実施しております。本制度のことを知っていますか（1つ選択）。

